

令和4年7月 発地別延べ宿泊者数割合

【国内】

	(単位：人泊、%)									
	県内	福岡県	その他九州	四国	中国	近畿	中部	関東	東北・北海道	国内計
令和4年7月（速報値）	46,602	90,521	49,388	6,557	19,390	20,744	10,360	37,239	3,014	283,815
令和3年7月（確報値）	54,337	79,328	37,468	4,212	12,638	15,884	5,686	26,190	1,492	237,235
前年同月比	85.8	114.1	131.8	155.7	153.4	130.6	182.2	142.2	202.0	119.6
令和2年7月（確報値）	42,051	59,382	28,577	3,144	8,298	10,835	4,682	15,424	1,292	173,685
令和2年同月比	110.8	152.4	172.8	208.6	233.7	191.5	221.3	241.4	233.3	163.4
令和元年7月（確報値）	46,014	92,584	61,446	10,407	27,406	24,909	12,462	42,355	3,442	321,025
令和元年同月比	101.3	97.8	80.4	63.0	70.8	83.3	83.1	87.9	87.6	88.4
令和4年6月（速報値）	53,521	88,738	44,394	5,718	15,285	18,574	8,639	34,025	3,796	272,690
前月比	87.1	102.0	111.2	114.7	126.9	111.7	119.9	109.4	79.4	104.1

【国外】

	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他アジア	欧米豪その他	外国小計
令和4年7月（速報値）	574	52	3	72	114	287	397	1,499
令和3年7月（確報値）	7	108	0	0	8	287	2,340	2,750
前年同月比	8200.0	48.1	—	—	1425.0	100.0	17.0	54.5
令和2年7月（確報値）	61	31	0	2	22	480	134	730
令和2年同月比	941.0	167.7	—	3600.0	518.2	59.8	296.3	205.3
令和元年7月（確報値）	20,058	8,487	11,468	13,548	750	1,575	2,114	58,000
令和元年同月比	2.9	0.6	0.0	0.5	15.2	18.2	18.8	2.6
令和4年6月（速報値）	*	*	*	*	*	*	*	1,186
前月比	*	*	*	*	*	*	*	126.4

* 発地別宿泊者数は、サンプル数が過小のため表示しない

【全体】

	合計
令和4年7月（速報値）	285,314
令和3年7月（確報値）	239,985
前年同月比	118.9
令和2年7月（確報値）	174,415
令和2年同月比	163.6
令和元年7月（確報値）	379,025
令和元年同月比	75.3
令和4年6月（速報値）	273,876
前月比	104.2

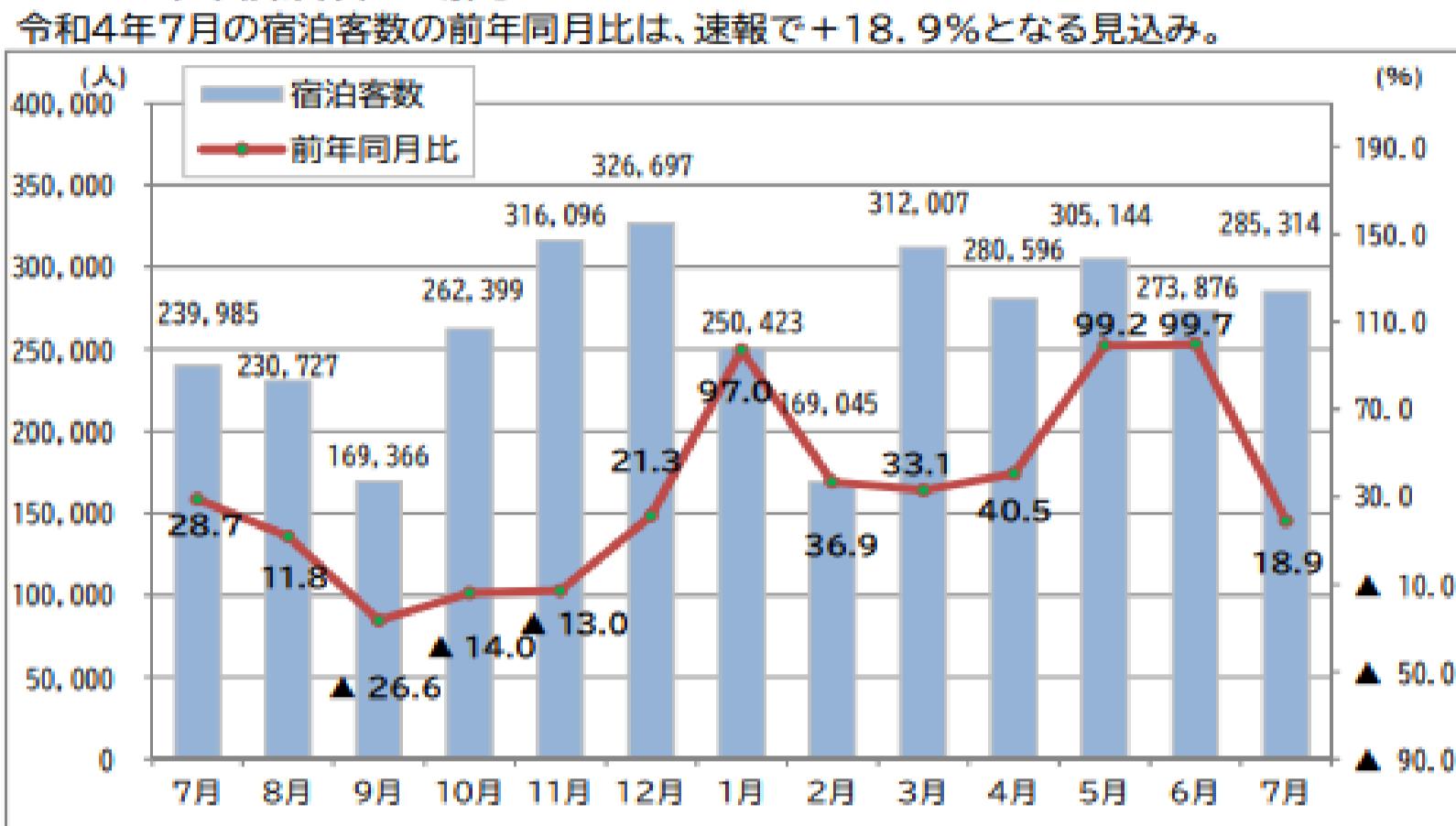
＜傾向・分析＞

- ・国内の延べ宿泊者数は、前月比104.1%、前年同月比119.6%、コロナ禍前の令和元年同月比は88.4%。3年ぶりに行動制限のない夏休みシーズンに入ったものの、全国的に新型コロナウィルス感染症が急拡大したこと等により伸び率は限定的となり、コロナ禍前の水準には未だ戻らなかった。一方、全国的に行動制限がなかったことなどから九州外の地域からの宿泊者数は前年、前々年に比べ大きく伸びている。
- ・国外の延べ宿泊者数は、前年同月比54.5%、令和2年同月比205.3%、前月比126.4%。6月10日から観光目的での入国が条件付きで許可されたが、その影響は限定的となりコロナ禍前の令和元年同月比は2.6%と依然として厳しい状況が続いている。
- ・全体の延べ宿泊者数は、前月比104.2%、前年同月比118.9%、令和2年同月比は163.6%。コロナ禍前の令和元年同月比は75.3%となっている。

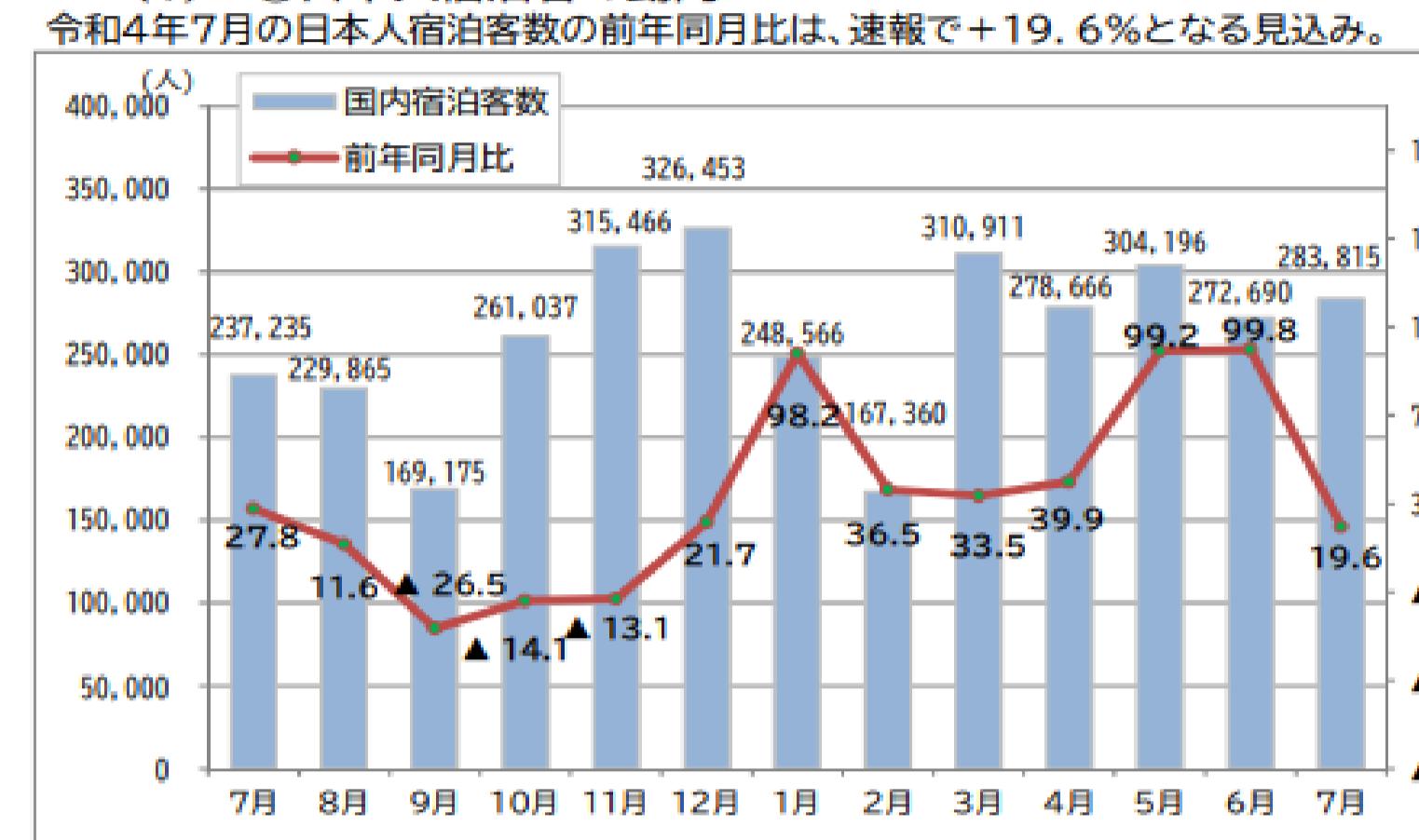
出典：大分県観光統計調査

令和4年7月の宿泊客等の動向
(令和3年7月～12月確報、令和4年1月～7月速報)

(1)宿泊客の動向

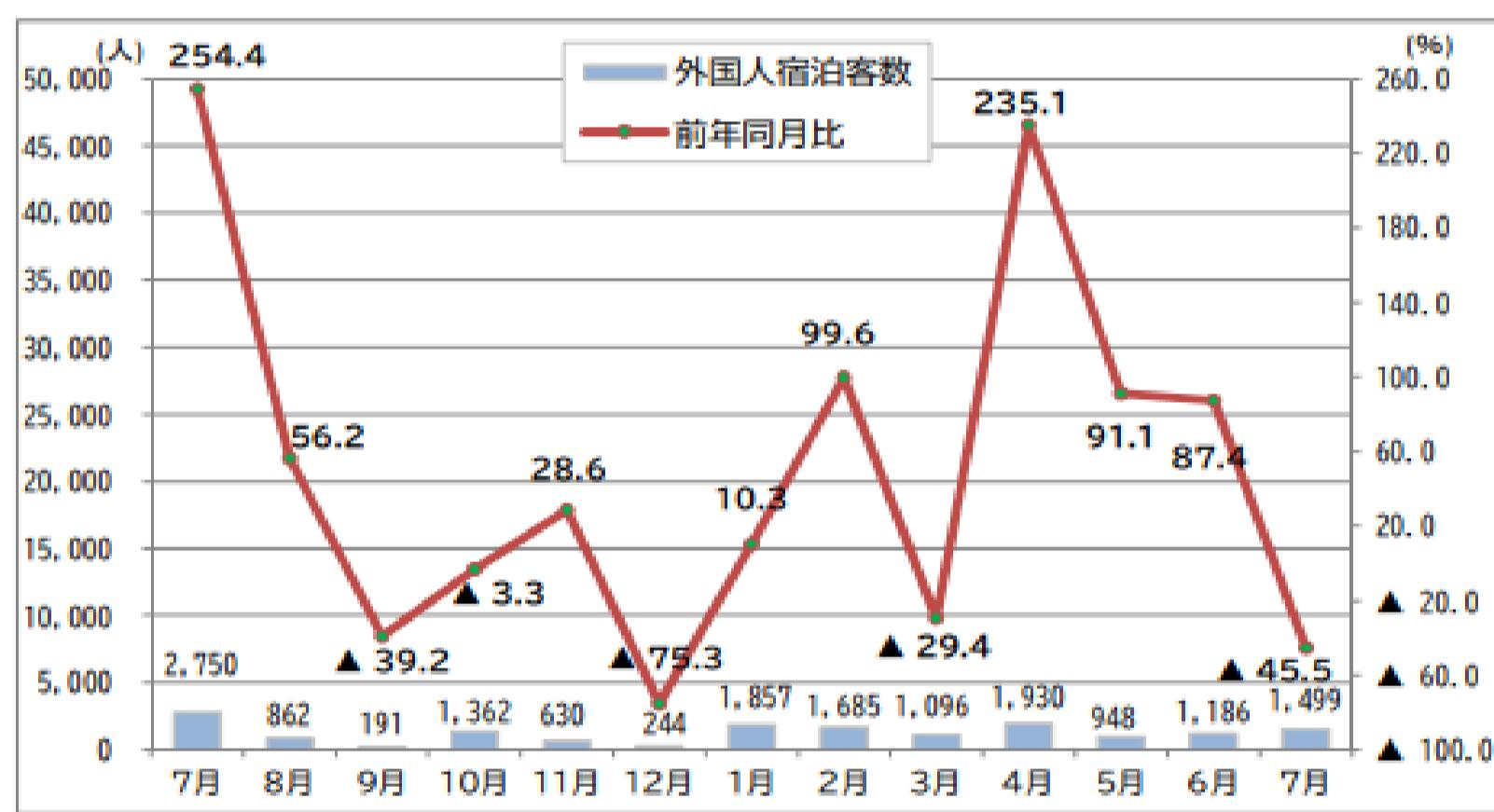


(1)-①日本人宿泊客の動向



(1)-②外国人宿泊客の動向

令和4年7月の外国人宿泊客数の前年同月比は、速報で-45.5%となる見込み。

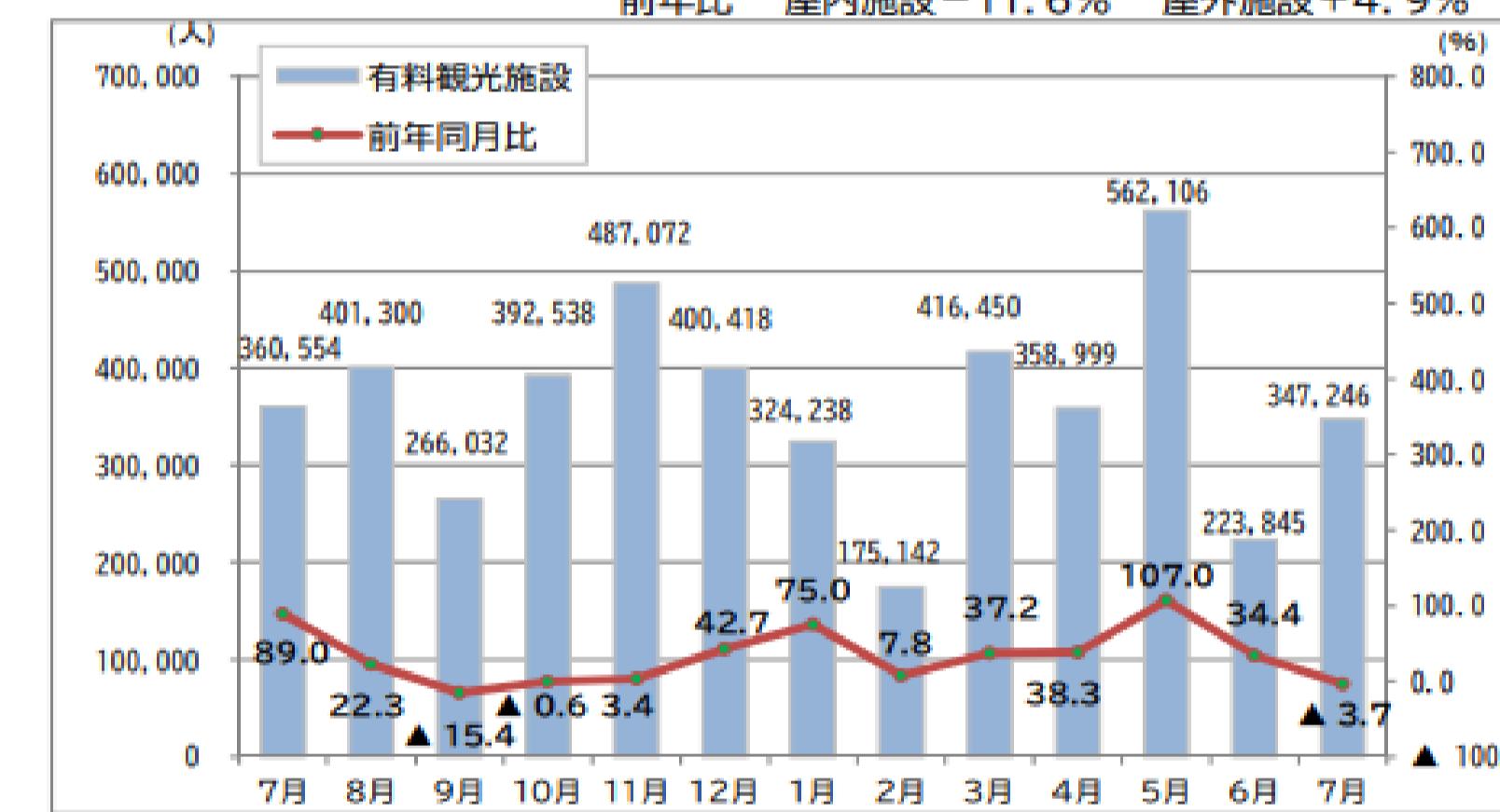


(2)有料観光施設(入場客)の動向

令和4年7月の有料観光施設(入場客)の前年同月比は、速報で-3.7%となる見込み。

(調査対象施設29施設)

前年比 屋内施設-11.6% 屋外施設+4.9%



※観光施設の対前年比は、休廃業・未提出施設を除いて算出しているため、過去に公表している値と比較すると一致しない場合があります。

出典：大分県観光統計調査

<傾向・分析>

- 日本人宿泊客は、昨年6月末に福岡や首都圏などの緊急事態宣言がまん延防止措置に移行し、7月の宿泊者数は回復傾向となった。しかし、その後の感染拡大から再び各地で緊急事態宣言が発令され、8月・9月の宿泊者数は減少傾向が続いた。9月末に全国で緊急事態宣言が解除となり、「新しいおおいた旅割」も再開となったことから10月・11月は増加。12月6日からは「新しいおおいた旅割」の対象に近隣県も加わったことなどから更に増加したが、オミクロン株の感染拡大の影響により県内でもまん延防止等重点措置が適用となった1月・2月は2カ月連続で減少となった。
- 3月に入り全国各地でまん延防止等重点措置が解除されたことなどから、第6波の前と同水準まで持ち直し、4月・5月・6月は行動制限がなかったことなどから高水準が続いた。
- 7月は夏休みシーズンにも入り更なる増加が期待されたが、行動制限こそなかったものの感染者数の急増により前年同月比、前月比共に微増にとどまった。
- 有料観光施設の動向については前年同月比96.3%と、前年より減少となった。
- 外国人宿泊客は、6月10日より観光目的の入国が条件付きで解除されたが、その影響は限定的で、依然として低水準が続いている。
- 全体においては、未だインバウンドの回復が見られない中、国内宿泊者の動きがそのまま反映されたかたち。
- 国内宿泊者の動きは、今年3月以降は行動制限がなかったことや旅割等の影響により高水準が続いているが、感染者数の急増等により未だコロナ禍前の水準には戻っていない。